

オーストリア首相が辞任

発表日：2016年5月10日(火)

～難民危機の波紋が広がる～

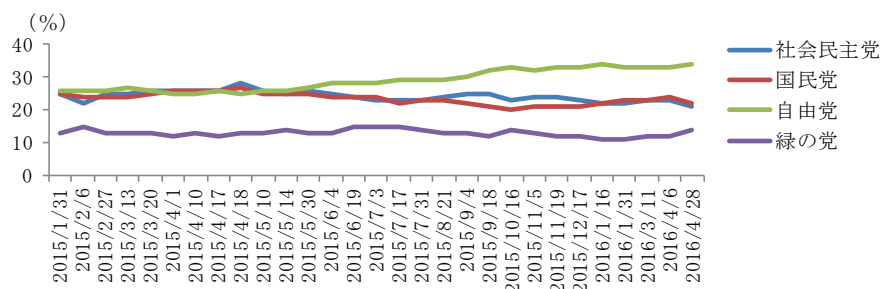
第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

◇ オーストリアのファイマン首相は、先月の大統領選敗北で党内運営が行き詰まり、首相と党首を辞任。連立内部から後継首相を選出する方針で、再選挙に発展するリスクは今のところ低い。ただ、与党内の不協和音が極右政党の支持拡大につながれば、次期総選挙で極右政権が誕生する恐れがある。

オーストリアのファイマン首相は9日、2018年の議会任期満了を前に首相を辞任することを表明した。先月の大統領選挙（第1回投票）で極右政党「自由党（FPO）」のホッファー候補が最多票を獲得。ファイマン首相が率いる中道左派の最大勢力「社会民主党（SPO）」の候補は、上位二名が進む決選投票（5月22日に予定）に進めなかった。昨夏の難民危機の深刻化以降、各種の世論調査で移民排斥を訴える自由党が最多の支持を獲得している（図）。社会民主党内は、難民危機対応での首相の強行姿勢（自由党の躍進と連立パートナーからの求めに応じ、国境管理を部分的に復活）に対してリベラル系議員から反発の声が挙がる一方、党勢拡大が顕著な自由党との連携を模索する動きも一部にあり、意見集約が困難な状況にある。こうしたなか、大統領選の敗北で党内をまとめることが難しいと判断したファイマン首相は自ら辞意を申し出た。極右政党出身の大統領が誕生しても、大統領は専ら儀礼的な存在で、政策への影響力は限定的と論じることが出来たが、その波紋は首相辞任という形で広がっている。

社会民主党と連立を組む中道右派の「国民党（ÖVP）」は、首相辞任後も連立を続ける方針を表明している。首相の任命権を持つフィッシャー大統領（社会民主党出身）の在任中に、社会民主党内から後継首相を擁立することで、議会の解散・総選挙を回避する意向とみられる。首相交代で連立政権が息を吹き返す可能性もあるが、与党内の不協和音がさらなる自由党の支持拡大につながる恐れもある。今のところ社会民主党と国民党の二党の合計支持率は4割超と、3割超の自由党の支持率を上回っており、再選挙時も二大政党が連立政権を発足することが可能な状況にある。だが、自由党にさらに躍進すれば、極右政権誕生も現実味を帯びてくる。難民危機の余波は他の欧州諸国でも予期せぬ形で広がる可能性があるだろう。

（図）オーストリアの政党別支持率の推移



出所：Gallup資料より第一生命経済研究所が作成

以上